

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2000

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1080 2010年3月号

## 「国有林モニター会議」を開催



〈企画調整室〉

二月二日、四国森林管理局において、「平成二一年度国有林モニター会議」を開催しました。国有林モニターは、国有林野事業の運営等について幅広い国民の意見、要望等を聴取し、これらを開かれた「国民の森林」に相応しい管理経営に役立てるため、四国在住の二六名の方に依頼しています。

会議では、出席された一五名の国有林モニターの皆様から、国有林モニターになった感想や国有林に期待すること等について、意見を頂きました。この会議で頂きました国有林モニターの皆様の意見や感想等については、「国民の森林」としての管理経営に活かして参ります。

(主な意見等は次のとおり。)

○最近の新築住宅は日本の木を使っていないと聞いている。森林林業再生プランが目指す木材利用自給率五〇%の達成に向け、木材利用についてPRしていくべき。

○近所に、木材を使った新しい校舎ができた。生徒に聞いてみると新しい校舎での勉強を楽しみにしているといっている。公共建築物や紙への利用を進めてほしい。

○勉強会や学習体験を通じて、森林浴の効果について広めていけば、もっと森林に親しみを持つてくれると思う。

○森林が大切である事を学校の教育として授業でもっと伝えるべき。

○間伐方法に点状間伐、列状間伐と二つの種類があることに感心した。

○木に触れる機会が少なくなっていると実感した。子ども達が使うものや周りに木がないことが残念に思う。



地区懇談会の様子（香川会場）

二月二三日、二四日に、愛媛県東温市と香川県高松市において国有林野の森林計画に関する地区懇談会を開催しました。

今回の地区懇談会は、平成二二年度策定、二三年度から実施予定の「地域管理経営計画」と「国有林野施業実施計画」の策定作業に先立ち、広く国民から意見を聞くために催し

たもので、策定の前年にこのような場を設けるのは、今回が初めてとなります。

会議は、計画部長と署長（所長）の挨拶の後、担当者から計画制度の概要、国有林の現状と現行計画を説明し、意見交換に移りました。

両計画区とも、都市部を抱えているため、都市近郊林として森林ふれあい関連の要望が多く出される一方で、木材生産への期待や、県産材利用拡大へのこ入れの希望、民間連携に関する具体的な要望など、様々な立場の方々から貴重な意見や要望を聞くことができ、大変有意義な懇談会となりました。

二二年度四月から本格的に計画策定作業に取りかかりますが、今回いただいた意見・要望を踏まえ、地域の実情に即したより良い計画となるよう、努めていきたいと思えます。

森林計画に関する地区懇談会を開催

（香川計画区・今治松山計画区）

計画課



表彰を受ける湯浅建設(株)



林野庁長官表彰の治山工事

平成二〇年度完成工事を対象に審査する「平成二二年度治山・林道工事コンクール」が行われ、次のとおり入賞工事が決定しました。

◎林野庁長官表彰  
 「治山工事部門」



表彰を受ける一若建設(株)



林野庁長官表彰の林道工事

雁巻山 (2032)  
 上水源流域広域保全工事  
 施工：湯浅建設(株)  
 「林道工事部門」  
 保戸峰林道新設工事  
 施工：一若建設(株)

治山・林道工事コンクール入賞工事決まる

《森林整備課・治山課》

計画課

- ◎四国森林管理局長表彰
- 「治山工事部門」
- ・穴吹川地区見の越  
 (上) 復旧治山工事  
 施工：多田工業(株)
  - ・ヒカリ石(91)  
 復旧治山工事  
 施工：片田丸吉建設工業(株)
  - ・春ヶ谷山(1043)  
 復旧治山工事  
 施工：(有) 金本組
  - ・和田山(2099) 奥地  
 保安林保全緊急対策工事  
 施工：大旺共栄(株)
  - ・別府山(52) 復旧治山工事  
 施工：(有) 西野建設
  - ・祖谷川地区樫尾  
 (下) 地すべり防止工事  
 施工：(有) 上西組
  - 「林道工事部門」
  - ・椿山林道82線新設工事  
 施工：(株) 晃立
  - ・ウツオノ川山林道  
 災害復旧工事  
 施工：沢良木建設(株)

# 各地の

## たより



### 出前教室で

#### 「木に親しむ学習」

〈ふれあいセンター〉

再生可能な資源である木材の役割はますます大きくなっています。当センターでは、材料としての木材の素晴らしさに気付き、さらに森林や自然環境への興味・関心につなげようと出前の木工教室を実施しています。



木工クラフトの様子

一月二八日は四万十市立具同小学校五年生八四名、二月二〇日は宇和島市立鶴島小学校四年生の親子五〇名、二月二四日は四万十市立藤岡小学校一〜四年生三三名を対象に実施しました。

最初に、木材の持つ色々な特徴を説明したり、世界で一番重い木材として知られるリグナムバイタを使った「水に浮く？」実験などによって、木材への関心を持たせました。

その後、思い思いの材料を選んだ児童達は、職員の指導を受けながら製作に取りかかりました。見本にこだわる児童、自身のアイデアを多いに盛り込む児童と様々でしたが、完成した立体作品やストラップなどを手にして、嬉しげな表情を浮かべていました。

また、「木材の話聞くことができてよかった」「作品づくりはとても楽しかった」などの感想が聞かれました。

### 四万十川の源流点で

#### 森林学習

〈ふれあいセンター〉

一月二九日、須崎市立吾桑小学校五年生一三名を対象に「森・川・海」のつながりについて森林教室を実施しました。

当日は、残雪の中、歩道沿いの樹木を観察しながら四万十川の源流点を目指しました。

源流点では四万十川にまつわる話題として、川の長さ、名前の由来等について説明しました。児童達は一筋の流れが幾つも集まり、大きな四万十川のスタート地点であることを、実際に現地の自然や水に触れ感じとったことだと思えます。

下山後は四万十源流センター「せいらの里」に移動して昼食を取った後、「森・川・海のつながり」を説明しました。

その後、児童からは「森林から魚に必要な栄養分が多く川や海に流れ出して、魚場を豊かにしている」といった、学習した内容や理解した事についての発表がありました。

児童たちは今回の学習を通じ

て、森林の「大切さ・恵み」が十分理解できたと考えます。



四万十川源流点での説明

### シイタケ栽培に挑戦

〈ふれあいセンター〉

二月八日、四万十市立藤岡小学校全校児童五九名を対象に、「山の学習」としてシイタケ栽培の体験学習を指導しました。

最初に、「きのこ」は森の恵みとして人気の食材であること、胞子でふえること、傘の形や生え方にも色々あることなどを説明しました。

そして、作業方法や栽培の注意点を説明した後、上級生が原

木のクヌギにドリルで穴を空け、下級生がシイタケの種駒を打ち込む作業に入りました。始めてみると、原木に千鳥足状の穴を空けることは思いの外難しく、悪戦苦闘の様子でしたが、職員の手助けを受けたり友達同士で協力しながら作業を進め、準備した原木の駒打ちを完了することができました。

この日できあがった長さ三〇cmの原木は、それぞれが家に持ち帰ってシイタケが生えるまで観察し、一mの原木については、学校で観察するそうです。

シイタケが生えるまでには時間がかかりますが、「生えてくるのが楽しみ！」との感想も聞かれました。



クヌギの原木への駒打ちの様子